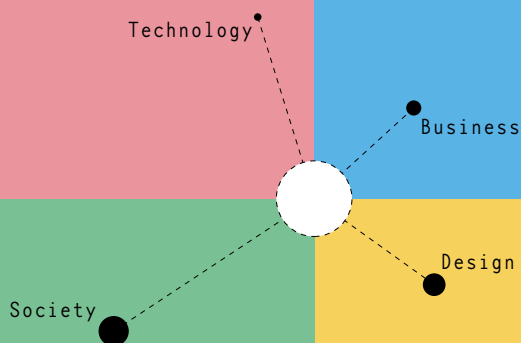


後藤滋樹

ごとう・しげき: 早稲田大学 理
工学部 情報学科教授。MINC
理事、APAN副議長などアジ
ア太平洋のインターネット界で
活躍している。

goto@goto.info.waseda.ac.jp



総復習の時代

昔のヒット曲が氾濫

最近のテレビのコマーシャルには昔のヒット曲が次々と登場している。発泡酒で『ヴォラーレ』(Volare)と歌えば、平面テレビは『愛の願い』(Love me, please love me)、さらに小型乗用車は『雨』(La pioggia)という具合である。

若い人は昔の曲を知らないだろうから、特に気づくこともなく、新しい曲として聞いているのかもしれない。一方で、私のように長年にわたって暮らしてきた人間は、昔の曲を聴くと懐かしい気持ちになれる。昔のヒット曲はレコードやCDの入手が難しいから、コマーシャルとしてどんどん流してくれることに感謝すべきかもしれない。

それと同時に、古い曲ばかり登場するのは心配でもある。新しい曲が枯渇してしまったのだろうか。21世紀というのは、新しいものに満ち溢れているという期待があった。たとえばアーサー・C・クラークのSF小説『2001年宇宙の旅』に描かれたイメージである。

映画モリバイバル

『2001年宇宙の旅』は映画としても有名だ。監督はスタンリー・キューブリックで1968年の公開だから、今となつては相当に古い。しかし当時してみればピカピカの新しい2001年であった。

ところで映画の世界でも、新作ばかりでなく昔の映画を再上映したり、再編集版が公開されたり、あるいはデジタル処理で甦った名作など、昔の作品が多数登場している。新しい映画でも昔の作品と同じモチーフの作品がある。新作の枯渇現象は、映画の世界でも心配になる。

小説の分野でも名作が復刻されたり、あるいは古典ブームというべき現象がある。もちろん、いずれも悪いことではないのだが、もう少し新しい作品が欲しいというのが正直なところである。新しい建築も、何となくどこかで見たとような形になってしまうのは、どうしたことだろうか。ニューヨークが究極の都会ということでもあるまいに、東京の建物が町並みも含めてニューヨークに似ていると感じるのは私だけではないだろう。

歌や映画、あるいは小説や建築だけではなく、世の中の全体にわたって新しい感じが欠如しているような気がする。デフレという経済現象が、世の中が縮むような、あるいは後退するような雰囲気醸成するのだろうか。

21世紀は前世紀の総復習から

冷静に考えてみると、昔の曲が少しくらい流行しても、音楽の全部が昔に戻るわけではない。当時の曲のうちでよかったものだけが、今でも再演奏されるだけだ。つまり時代がすっかり逆行しているわけではない。

また、新しい時代が来るとしても、ある瞬間にすべてが新規に始まることはないはずだ。新しいものは、個々に登場するたびに評価される。評判がよければ、そこで普及が始まる。その状態では、新旧が混在するのが自然だ。古いものが混じっていても、それを気にしすぎるのはよくない。新しいものが含まれているならばよしとすべきだ。

今の時期は、確かに古いものが見直されている。これは、あたかも現代が過去を復習しているようなものだ。デフレという経済現象も復習の一環かもしれない。戦争という行為は、もはや必要がなくなったように見えたのに再演されてしまった。このようなフェーズを経ないと人類は先へ進めないものなのだろうか。

そして新しい時代へ

未来は過去の反復ではない。古いものが氾濫している中でも新しいものが登場している。そこをお互いに認識し合うことが大切だ。

私たちは過去の時代にはなかったものを手にしている。それを有効に使うべきだ。たとえばパソコンである。コンピュータの歴史は長い、個人が自由に使えるようなコンピュータが登場したのは、ごく最近のことである。そのパソコンの性能は昔のスパコンを凌駕する。

インターネットも同様に新しい。技術的にいえばインターネットの原型となるARPAネットは1969年に誕生している。キューブリック監督の1968年の映画と同時代だ。ただしインターネットが社会的な存在としての意味を持ったのは、ほぼ最近の10年間に限られる。このような意味でのインターネットは新しい要素である。

もちろん、パソコンやインターネットが新しい要素のすべてではない。他の分野にも新しいことがある。そもそもパソコンやインターネットは、単独で力を発揮するものではなく、適切な応用分野と組み合わせることで初めて意味を持つ。つまり、今の時代に何よりも必要なのは、新しい応用分野の知恵なのである。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp